

学校規模等適正化に関する説明会（山田東小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 7 月 20 日（水） 午後 7 時から午後 8 時 30 分まで
2. 場 所 山田東小学校 体育館（参加者 57 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、
田中主任、廣瀬
学校教育部：花崎次長

4. 内 容

（質問 1）

小中一貫校の卒業式は一回だけか。また、なぜこの校区だけが施設一体型小中一貫校にならなければならないのか。

（回答 1）

小中一貫校が義務教育学校の場合については、卒業式は 1 回が一般的です。また、統合に関する適正化方策については、5 つの視点から比較・評価を行い、総合的に検討した結果、交北小との統合が最適であると判断されました。小中一貫教育を推進していくうえで、山田中と交北小の敷地が隣接し、その利点を最大限生かすことが可能な施設一体型小中一貫校として提案されたものです。

（質問 2）

通学路の安全性については、交北小まで歩道がなく危険である。

（回答 2）

通学路については、学校統合の有無に関わらず、安全性を確保する必要があるものと考えています。また、歩道設置などについては、物理的・構造的に可能かも含めて検討する必要があります。

（質問 3）

統合のスケジュールの「できる限り早期に」と「早期に」の違いは何か。また、小中一貫校は、新しい学校をつくるということでもいいのか。さらに、通学路の安全確保についてお願いしたい。大規模校のデメリットは、学校の運営上の課題ではないか。

（回答 3）

実施時期については、「できる限り早期に」とされた方策を優先して取り組むこととなります。また、小中一貫校については、新しい学校をつくっていきたいと考えており、先進事例も参考にしながら、子ども達にとってのメリットデメリットについて、引き続き、調査・研究を進めてまいります。通学路の安全性については、できる限り確保していくよう努めます。また、大規模校のデメリットについては、ご指摘の点も含め提言されたものと認識しています。

（質問 4）

審議会から出されている子どもに身につけさせたい力や課題については、学校規模とは関係ない。学校教育そのものが大きな課題であり、統合すれば解決できるという考え方は間違っている。

(回答4)

統合して学校を大きくするのではなく、適正な学校規模を配置することを目的として取り組んでいます。また、教育活動は、学校規模に関係なく子どものために取り組んでいく必要があります。クラス替えを可能にし、ある一定規模の集団生活の中で、人間関係をつくるのが、子ども達の成長にとってより良いものと考えています。

(質問5)

通学距離の小学校基準4kmは直線距離なのか。炎天下で更に遠くなった通学距離を歩かせるのは現実的でない。

(回答5)

義務教育緒学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令では、小学校基準で4km以内、中学校基準で6km以内と定められています。また、基準で示されている距離は直線距離ではありません。

(質問6)

適正化方策では、施設一体型小中一貫校を視野にと説明があったが、答申では小中一貫校が最善な方策であるという結論に至った具体的な理由を教えてください。最善の方策とは誰に対してのものか。

(回答6)

適正化方策の比較・評価項目の中の「小中連携」において、山田中敷地と交北小敷地が隣接しており、一体的に活用できるメリットがあることで、施設一体型小中一貫校の設置が有効であると判断されました。また、審議会では、子どもにとって最善の方策について議論されています。

(質問7)

子どもにとって最善の方策ではなく、行政側の視点で小中一貫校をつくりたいから、たまたま敷地が隣接していたからというように感じる。また、通学距離については、歩く距離が長くなるとストレスになる。スケジュールについては、「早期に」ではなかったか。基本方針は8月中に取りまとめる予定ではなかったか。

(回答7)

通学距離については、2km以上を基準にある一定条件が整えば、公共交通機関の利用について助成する制度もあります。また、スケジュールに関しましては、答申で「早期に」としていることも踏まえる中で、施設一体型小中一貫校の子ども達にとってのメリットデメリットについて、先進事例を参考にしながら、引き続き、調査・研究を進めてまいります。基本方針については、検討対象校全てに説明会を実施した後、その際にいただいたご意見等を参考にしながら、取りまとめていく予定としていますが、現時点では全ての説明会の日程が確定していないなどの理由により、8月中の取りまとめは物理的に困難と考えています。

(質問 8)

教育委員会の方は、統合を推進する立場なのか。

(回答 8)

本日の説明会は、答申の内容を適切に説明するとともに、今後学校規模等の適正化に関する基本方針を取りまとめるにあたり、皆様から様々なご意見をいただくことを趣旨とするものです。取りまとめという点からは、推進という意味も含まれると考えています。

(質問 9)

教育委員会の中に、統合に反対する方もいるのか。

(回答 9)

学校統合については、できる限り避けたいと考えておりますが、少子化の進行に伴い必要な取り組みと考えています。今後、市の重要施策として定住人口確保策や人口誘導策の取り組みなどの成果により、児童生徒数が大幅に増加するような事態が生じた場合には、学校統合の必要はないものと考えています。

(質問 10)

統合後の跡地はどうなるのか。

(回答 10)

跡地の利活用については、敷地の一部を売却し、学校整備費に充てることも選択肢の一つとして考えられます。また、避難所の在り方など、全庁的な取り組みとして皆様方のご意見等をお聴きしながら、検討していく必要があるものと考えています。

(質問 11)

小中一貫校のメリットデメリットを今後検証していくとのことだが、審議会ではどのような議論がなされたのか。

(回答 11)

審議会では、山田中と交北小の敷地が隣接し、その利点を最大限生かすことが可能な施設一体型小中一貫校として提案されたものです。また、教育委員会としましても先進的に実施している施設一体型小中一貫校へ視察に赴き、子ども達にとってのメリットデメリットについて意見交換を行いました。

(質問 12)

本日参加できなかった方のために、今後もこのような話し合いの場は設けるのか。議事録を作成し、公開していただけるのか。

(回答 12)

議事録の公開に関しては賛否がありますので、本日の内容をどのように共有していくのかについては、校区コミュニティ協議会やPTA協議会と協議しながら決めてまいります。

(意見 1)

今回の説明会で、みんな納得したと勘違いされては困る。多くの反対の方もいるので、説明を聞いただけで、納得したのではないということを確認していただきたい。

(質問 13)

小中一貫校のメリットデメリットがわかっていない中で、進めていこうとする教育委員会の考え方はどうかと思う。

(回答 13)

施設一体型小中一貫校については、先進事例を参考にしながら、子ども達にとってのメリットデメリットについて、更に調査・研究していく必要があるものと考えています。

(質問 14)

情報公開の方法が適切でないと感じた。適切なタイミングに適切な情報をもっとわかりやすい方法で公開していただきたい。

(回答 14)

できる限り要望に応えられるよう、今後の課題としてまいります。

(質問 15)

反対が多ければ統合がなくなるということがあるのか。また、話し合いは、今後ももっていただけるのか。

(回答 15)

今後、意思決定を行っていく際には、十分な説明をもってご理解とご協力を得ていきたいと考えています。

(質問 16)

反対が多いと答申の内容は変わるのか。

(回答 16)

答申の留意事項にありますように、今後も十分な説明を行いながら、ご理解とご協力が得られるように取り組んでまいります。

(質問 17)

回答になっていない。反対したら実現しないということもありえるのか。

(回答 17)

可能性として、ないことはありません。

(質問 18)

オープンな形で進めるということであれば、議事録は市のホームページなどに公開すべきではないか。

(回答 18)

議事録の公開に関しましては、賛否がありますので慎重な対応が必要と考えております。ご要望の多い中、透明性を確保する観点から公開していく方向で検討してまいります。